

年間第 23 主日 (マタイ 18:15-20)

イエスがその中におられる友が「真の友」



マザーテレサの映画をご覧になったことがあるでしょうか。「神の愛の宣教者会」という修道会を創立したことでもちろん知られています。列聖もされました。私は映画館で見るチャンスがあったのですが、映画館に行きそびれて、DVDを購入して視聴しました。彼女に起こった特別な体験はもちろん素晴らしいと感じましたが、私は今回別の点を取り上げたいと思います。

彼女は、「神の愛の宣教者会」を創立したことで、志願してくる多くの志願者を選別する務めを果たさなければなりませんでした。つまり、「この修道会に向いているか、向いていないか」をふるいにかけていなければならなかったのです。神学院とか、志願院で働いたことのある方々が避けては通れない務めです。

マザーテレサは冷静に、もちろんよく考えた上で、ある人を志願院から実家に帰るよう促します。志願者は、理由を告げられる人もいます。しょうし、時には理由を告げられずに実家に返されることもあります。すべてマザーテレサの中には毅然とした理由がありました。

しかし、実家に帰ったかつての志願者たちを、彼女は決して忘れていませんでした。ある時神の愛の宣教者会にスキャンダルと言いますか、悩ましい問題が生じます。その荒波を乗り越えるために、たくさんの祈りが必要でした。当然修道会全体が、心を一つにして祈るのですが、マザーテレサはその他に、世界中から志願してきたけれども帰された一人ひとりに、「〇〇さん、今あなたの祈りが必要な。祈ってちょうだい」と電話をかけます。

電話を受けた、もと志願者はどうしていたでしょうか。映画の中では、時差のある国に住んでいるもと志願者に電話がかかり、「祈ってちょうだい」とお願いされると、二つ返事で「はい分かりました」と答えるのです。今週のイエス様の言葉が響きます。「また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。」(18・19)

時差も違い、志願者の頃とは全く違う生活をしていたのに、その人はマザーテレサの電話に即座に答えました。きっと、「いつかお願いされたら、すぐに応えよう」と常に心の準備をしていたから、対応できたのだと思います。私はそのシーンを見て、マザーテレサには、常に、心を一つにして祈り求めてくれる友人が地上にいる。それが映画の中で私の心を打ちました。

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」(18・20) あなたには、「わたしと一緒に祈ってくれる？」とお願いして、「ほいきた」と二つ返事で祈ってくれる人がいるでしょうか。そんな心強い友が、二人また三人いるでしょう

か。残念ながら中田神父にはいま頭にそういう人が浮かびません。

「祈っておくよ」と返事してくれる人はいます。しかし「今、このときに祈ってほしい」とお願いして「分かった。君の願いだからすぐ祈るよ」と言ってくれる人を二人また三人思いつきません。人間関係が壊れそうなときにも、互いに向き合い、赦し、そしてキリストの名によって一つになれる。あなたには、そんな心強い友がいるでしょうか。その友は、どんな金銀よりも、どんな宝石よりも、大切な宝だと思います。

あるいは、イエスご自身が、映画のマザーテレサのように、「今、このときに」祈りを共にしてほしいと願っているかもしれません。私は、その願いに「今すぐに」答えられる状態を保っているでしょうか。「ちょっと待ってくださいね」と言って、それから答えるでしょうか。

あなたが、今すぐに一緒に祈ってくれる人を見つけたらその人を決して失ってはいけないと思います。その人こそが、生涯あなたを助けてくれる真の友だからです。そしてその友との中に、イエスはいつもともにいてくださいます。イエスがその中におられる友こそ、「真の友」なのです。

年間第 24 主日(マタイ 18:21-35)